

岡山大学経済学部・会計プロフェッションコースの新設について —6年一貫教育への挑戦—

小西 範幸

岡山大学大学院社会文化科学研究科（会計学講座）教授

岡山大学経済学部・会計プロフェッションコースでは、公認会計士、税理士、あるいは企業（公企業を含む）の会計・財務担当職への従事者などの幅広い会計専門職（会計プロフェッション）を目指す学生を対象にして、会計領域に関する基本的思考や専門知識を体系的に学べるだけに留まらず、その関連領域についての広範な基礎知識を学べるよう配慮しています。

それは、会計基準の国際的統一化に伴う会計プロフェッションの社会的ニーズの広がりとその専門性の高度化に対応するためです。したがって、本コースでは、国際的な会計教育プログラム(ex. IES)を見据えてカリキュラムが構築されています。そこでは、より高度な会計プロフェッションの育成を目的とする大学院教育との一貫性を視野に入れたカリキュラム*が展開され、会計事務所等への就業体験実習（インターンシップ）を積極的に取り入れています。

岡山大学では、毎年、複数の公認会計士、税理士等の合格者を輩出し、それらの数は中四国地域の大学においてはトップの位置にあります。最近では、日本商工会議所簿記検定試験1級の合格を果たした後に、民間企業、県庁、市役所において会計・財務担当職に従事している卒業生が増えており、会計プロフェッションの裾野が広がってきています。

本学の会計プロフェッションコースの特徴と将来ビジョンは以下の通りです。

【特色】

- ① 卒業論文と修士論文の連携および必須化
- ② インターンシップの専門選択科目への組み入れ
- ③ コース必須科目の新設による段階的な履修・学習の実現
- ④ 法学部科目（12単位）の専門選択科目への組み入れによる、公認会計士試験全科目の履修の実現
- ⑤ 多彩な外部講師の招聘（集中講義）

【将来ビジョン】

岡山大学附属会計学研究所（事務所）の設立

目的：⇒地域に根付く会計士、税理士の育成

学生・院生（合格後の者も含む）と地域会計士・税理士との交流の場を提供

- ①会計士、税理士試験合格後の院生・学生の受入れ
- ②実務補習所の開設（他大学合格者の受入れ）
- ③会計プロフェッションのリカレント教育

* 多くの会計専門職大学院は、学部とは独立した2年間でのカリキュラムを設定しており、また、修士論文を課してはいない。

岡山大学経済学部 会計プロフェッションコース の新設について — 6年一貫教育への挑戦 —



岡山大学大学院
社会文化科学研究科教授(会計学講座)
小西 範幸

岡山大学経済学部・4コース制 — プロフェッション教育の拡充 —

- ◆ 現代経済分析コース
- ◆ 国際比較経済コース
- ◆ 経営・会計コース
⇒ 経営・会計コース希望の学生の増加(約6割)
会計士・税理士試験等の試験合格者の増加

⇒

会計プロフェッションコース 組織経営コース

Trinity Revolution in Accounting Profession



会計基準の国際的統一化

新・公認会計士試験制度

会計・会計プロフェッション
企業活動の多角化・国際化
証券・資本市場の国際化

会計プロフェッション
教育の充実

国際教育基準(IES)

国際会計士連盟(IFAC)は、会計プロフェッションのための教育・実践トレーニングのベンチマークを示す。

IFAC: 資本調達のグローバル化に伴い、国際的に調和のとれた基準を設定・公表することによって、会計プロフェッションの発展および強化につとめることを目的として1977年に設立。

IES1: 会計プロフェッション教育プログラムの参加要件

IES2: 会計プロフェッション教育プログラムの内容

会計プロフェッション教育に必要なもの

主要科目:

- ① 会計およびファイナンスとこの関連科目
(財務会計, 管理会計, 税法, 会社法, 監査, ファイナンス)
- ② 組織およびビジネス
(経済学, コーポレートガバナンス, ビジネス倫理, 経営学, マーケティング)
- ③ IT(情報システムの設計, 管理, 利用)

期間: 2年間の専門会計教育(学士・専門的資格の取得) + 2年・3年間の会計研究(修士取得)

⇒ 最新の知識は必ずしも会計専門職の長期的な利益に繋がらない。問題の所在を識別し、その解決に必要な知識の選択と取得

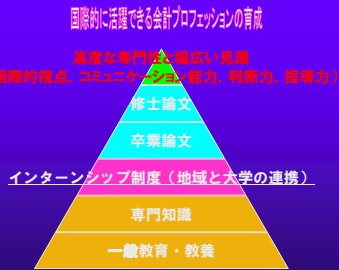
一般教育と教授法

広範な一般教育は専門教育に大きく貢献

一般教育: ①歴史観や世界観, ②政治経済, ③コミュニケーション能力, ④数量的データの処理, ⑤リサーチ力・論理展開力

教授法: インターシッピング, ケース・スタディー, プロジェクト学習, グループ学習, 自主学習, eラーニングの使用,

会計プロフェッション教育の枠組み



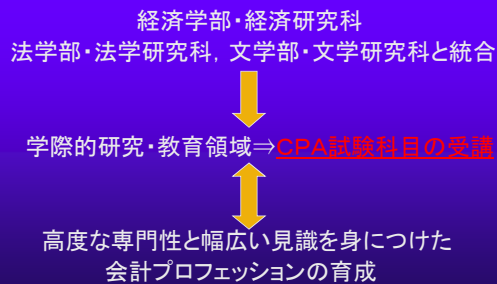
7

6年(5年)一貫教育



8

岡山大学大学院 社会文化科学研究科の特徴



9

カリキュラムの特徴

- ① 卒業論文, 修士論文の連携と必須化
- ② インターンシップの専門選択科目への組み入れ
- ③ コース必須科目の新設による段階的な履修・学習の実現
- ④ 法学部科目(12単位)の専門選択科目組み入れによる, 公認会計士試験全科目の履修の実現
- ⑤ 多彩な外部講師の招聘(集中講義)

10

岡山大学附属会計学研究所 の設立

目的: ⇒ 地域に根付く会計士, 税理士の育成
学生・院生(合格後の者も含む)と地域の
会計士・税理士との交流の場を提供

- ① インターンシップの拠点
- ② 実務補習所の開設(他大学合格者の受入れ)
- ③ 会計プロフェッションのリカレント教育

11

集中講義と講演会での講演者

- ◆ 国際会計士連盟(IFAC)会長
- ◆ 日本公認会計士協会会長
- ◆ ワシントン大学大学院MBA研究科長
- ◆ 伊藤忠商事(株)常勤監査役
- ◆ 金融庁企業会計審議会委員(内部統制部会部会長)
- ◆ 新日本監査法人副理事長
- ◆ 中小企業再生支援全国本部 マネージャー

予告:(社)日本内部監査会との共同セミナー
10月17日開催

岡山大学経済学会学生懸賞論文

・ 入選

- ・ 藤原華絵「米國財務会計の概念フレームワークにおける期待キャッシュフロー・アフローチの基礎的 特徴 -公正価値測定の検討-
- ・ 河合江里加「IASBスタッフ・ドラフト「中小企業用国際財務報告基準」に関する一考察」

・ 佳作

- ・ 木村梨恵「非営利会計の概念フレームワークに関する一考察 -米國FASB「概念報告書」第4号を中心として-
- ・ 為原牧「EUにおける日本GAAPの同等性評価の現状 -欧州証券規制当局委員会の「テクニカル・アドバイス」を中心として-
- ・ 渡部徹「独立行政法人会計基準の特徴 -企業会計原則との比較を中心として-
- ・ 山上響子「企業分析技法の体系化とその評価 -ダイキ(株)の事例を通して-

13